

令和3年度 事業報告書

I. 事業団事務局（本部）

1. 理事会及び評議員会等の開催状況

理事会は2回、評議員会は1回開催され、令和2年度決算の承認、令和3年度補正予算、令和3年度事業計画、予算等について承認された。

(1) 監事監査

- ・ 開催期日 令和3年5月19日(水)10時00分～12時00分
- ・ 場 所 事業団本部
- ・ 監査内容
 - ① 令和2年度理事の業務執行状況について
 - ② 令和2年度財産状況について

(2) 令和3年度第1回理事会

- ・ 開催期日 令和3年5月28日(金)9時30分～11時30分
- ・ 場 所 ワークサポート陽だまり
- ・ 決議事項
 - ① 令和2年度事業報告及び決算(計算関係書類及び財産目録)の承認について
 - ② 任期満了に伴う理事選任について
 - ③ 任期満了に伴う監事選任について
 - ④ 任期満了に伴う評議員選任について
 - ⑤ 定時評議員会の招集について
- ・ 報告事項
 - ① 理事長及び常務理事の職務執行状況について
 - ② 社会福祉充実計画(残額)について

(3) 令和3年度第2回理事会

- ・ 開催期日 令和3年6月18日(金)15時30分～15時50分
- ・ 場 所 ワークサポート陽だまり
- ・ 決議事項
 - ① 理事長選任について
 - ② 常務理事選任について
 - ③ 評議員選任・解任委員の選任について
 - ④ 評議員選任・解任委員会の招集について

(4) 令和3年度第3回理事会

- ・ 開催期日 令和4年3月25日(金)9時30分～10時30分
- ・ 場 所 ワークサポート陽だまり
- ・ 決議事項
 - ① 令和3年度収支補正予算の件
 - ② 令和4年度事業計画の件
 - ③ 令和4年度収支予算の件
 - ④ 施設長任命につき議決を求める件

- ・ 報告事項
 - ① 理事長及び常務理事の職務執行状況について
 - ② 理事退任の件

(5) 令和3年定時評議員会

- ・ 開催期日 令和3年6月18日(金) 14時00分～14時55分
- ・ 場 所 ワークサポート陽だまり
- ・ 決議事項
 - ① 令和2年度事業報告及び決算(計算関係書類及び財産目録)の承認について
 - ② 任期満了に伴う理事選任について
 - ③ 任期満了に伴う監事選任について
- ・ 報告事項
 - ① 理事長及び常務理事の職務執行状況について
 - ② 社会福祉充実計画(残額)について

2. 職員の状況

令和3年度における職員の採用状況は、障がい福祉事業部門の支援員等については、正規職員1名を採用した。その後、欠員補充のため、嘱託職員等の採用を行った。

保育園においては、短大卒の正規職員を1名採用した。その後の補充については、パート職員を採用し配置した。

(内訳)

(令和4年3月末現在)

区 分	職員数	備考
事業団本部事務局	6名	理事長、事務局長(兼)他
敦賀市立やまびこ園	25(6)名	園長(兼)、園長補佐、サビ管、支援員、栄養士、看護師
ワークサポート陽だまり	14(6)名	所長(兼)、所長補佐(兼)サビ管、支援員
敦賀市障害者地域生活支援センターこだま	4名	センター長(兼)、センター長補佐(兼)、相談支援専門員、生活支援員
嶺南障害者就業・生活支援センターひびき	5名	センター長(兼)、センター長補佐(兼)、就業支援員
グループホーム桜ヶ丘・新和	2名	管理者、世話人、(委託世話人8名)
はなえみ	15(9)名	所長(兼)サビ管、支援員、看護師
松原保育園	24(9)名	園長、主任保育士、保育士、栄養士(兼)、看護師
木崎保育園	23(8)名	園長、主任保育士、保育士、栄養士(兼)、看護師
金山保育園	20(9)名	園長、主任保育士、保育士、栄養士(兼)、看護師
敦賀市自立促進支援センター	5(2)名	センター長(兼)、センター長補佐(兼)、主任相談支援員、相談支援員、就労支援員
合 計	143(49)名	
平均年齢	43歳	

(注) ()内はパート職員の内数

3. 財務の状況について

利用者数および園児数の減少により、当初より減収が予想されていたため、毎月の収支状況を把握し、経費支出の管理を徹底した。適切な収益を確保するため、障がい福祉部門においては、土曜日開所を継続して実施し、保育園については、積極的に園児の受け入れに取り組んだ。

4. 特記事項

コロナ禍においても、安定したサービスを継続して提供するため、感染対策チームを発足し、法人統一の基準および事業別の基準を策定した。適宜会議を開催し、感染対策についての情報の共有や感染者発生時の対応等の報告を行い、感染対策に取り組んだ。

また、社会保険労務士と業務契約を締結し、日常的にアドバイスを受け、人事・労務管理の整備等に取り組んだ。

Ⅱ. 障害福祉サービス等事業

1. 敦賀市立やまびこ園

例年同様他県や他市町からの入所受け入れに関する問い合わせが後を絶たない。また、生活介護においては、新規の利用者の希望があった。短期入所や日中一時の利用についてのニーズも多く、新型コロナウイルスの感染状況を鑑みて受け入れを行った。

生活介護事業の日中活動については、法人の新型コロナウイルス対策基準に基づき、感染対策を行いながら、通所、入所ごとの活動や、感染状況によっては合同でのサロンやミュージックケアなどを行った。重度、高齢化が進む中、利用者に対して、「やまびこ園で生きがいを感じる」ことに主眼を置き、「ワーク」「サロン」「リラク」の活動を展開し、入所のグループでは生活に即した内容の「ライフ」を新設した。施設入所支援事業においては、利用者の高齢化に伴い身体面・認知面双方において重度化している状況が続いており、それらに対応すべく、環境面とソフト面の双方においての整備を継続した。

入所者の中で65歳以上が半数を占める状況となり、より専門的な介護技術、介護保険制度についての知識も必要となってくると思われる。

1. 施設の概要

(1) 名称	敦賀市立やまびこ園		
(2) 種類	指定障害者支援施設		
(3) 所在地	敦賀市長谷 47 号 21 番地		
(4) 定員	生活介護	50 名	
	施設入所支援	30 名	
	短期入所	4 名	
	日中一時支援	4 名 (原則)	

2. 利用状況 (令和 4 年 3 月 31 日現在)

【延利用者数】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
生活介護	626	535	686	617	634	592	643	614	646	595	524	639	7,351
施設入所	848	855	861	925	910	844	835	819	834	804	727	798	10,060
短期入所	54	26	65	26	2	1	35	30	23	28	37	20	347

【障害別】

区分	1	2	3	4	5	6	計
生活介護	0	1	2	8	9	14	34
施設入所	0	0	2	8	7	12	29

【年齢別】

区別	18～29		30～39		40～49		50～59		60～69		70以上		合計			平均年齢		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
生活介護	1	1	6	1	5	2	3	1	4	3	3	6	22	14	36	50	62	54
施設入所	2	0	1	1	6	3	1	1	3	3	3	5	16	13	29	52	62	57

【短期入所】（令和3年4月～令和4年3月）

区 分	利用人数	利用回数	総算定日数
宿泊	19名	122回	367日

【日中一時】（令和3年4月～令和4年3月）

区 分	延利用者数
	164名

3. 施設の運営

「生活介護事業」「施設入所支援事業」「短期入所」「日中一時」の4つの事業を実施する中で、今年度は新型コロナウイルスの感染対策基準に即して、通所グループと入所グループとで活動スペースを分ける形で、これまで取り組んでいた日課内容を提供した。通所グループの活動については、「ワーク」「サロン」「リラク」を軸に少人数での活動を行い、一人一人に合わせたきめ細やかな支援を行うことができた。

入所グループについては、「カラオケ」「サロン」「リラク」の他に新たに生活に即した内容で「ライフ」を新設し、家庭菜園や居室の清掃などを個別に関わり行うことができた。

今年度策定した法人の感染対策基準に則り、対策基準レベルに応じて合同での活動を行った。また、新型コロナウイルスの感染拡大の状況に応じて、様々な感染対策を講じた上で、行事や外出等については、制約のある中ではあるが、実施した。

施設入所支援事業に関しては、入所に関する問い合わせが引き続き多い状況に変化はないが、3名の方の退所と2名の方の受け入れを行った。入所を希望されている方の中で緊急性などを加味して、現在も新規の入所者の確保に向けて調整を行っている。親亡き後を見据え、通所サービスを利用している家族や短期入所の利用を希望される家族からの問い合わせも多くなってきている。施設入所支援における利用者状況については、精神科に再入院となった利用者については、「試験外泊」を重ね、入所での生活を定着させていく方向性であったが、新型コロナウイルスの感染拡大状況によって、退院時期が延期となっている。また、転倒による骨折で入院している利用者については、退院後の生活様式について検討を重ね、退院に向けて調整をさせる。

「短期入所」「日中一時」に関しては、利用希望が増えている状況に変わりはない。「短期入所」については新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、利用希望については緊急性の高いケースを優先したが、利用については感染基準対策に基づいて、体調チェックリストの提出を依頼する形で対応した。

「日中一時」においては、土日は、4名～5名程度、平日は、2名～4名程度の利用に制限を掛けた。

職員の研修については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度も県外の往来を控え、リモートやオンラインでの研修を中心に参加した。また、全国的に研修の形式が集合型からオンライン形式に変化しつつあり、県内の研修においても業務上必要な研修である相談支援従事者初任者研修、サビ管研修（基礎・実践）や強度行動障害支援者研修（基礎、実践）等については、プログラム上必要な場合は集合形式での参加をした。嶺北地域で開催される講義形式の研修への参加は極力控え、虐待防止や感染予防対策の研修はリモートやオンラインでの参加とした。

園内研修としては、今年度高齢委員会主催による高齢者に必要な介護技術について、実技を交えて実施した。また、12月には虐待防止委員会とコンプライアンス委員会の共催で虐待防止についての研修を行い、2月には自閉委員会主催で事例発表と障害の特性、リフレーミング、氷山モデルについての学びの場を設けた。また、年間通して、職員会議等の場を利用し、感染症予防対策の研修を行い、最新の感染症予防の情報を共有した。

職員の育成として、今年度も“根拠に基づいた支援”を目標に掲げ、自閉委員会ではこれまでも実施している視覚支援とその知識を実際の支援に導入し検証する活動を継続し、入浴スキルの向上に向けた支援方法や、行動障害に対する支援、スケジュール支援にスポットを当てて、支援の方向性を共有した。高齢委員会では、還暦等の祝いをこれまで行っていなかったため、今年度は60歳以上の全ての利用者を対象に、長寿の祝いを企画し、古稀、傘寿を迎えられた方のお祝いをした。

また、個別ケースに対して、数名の利用者に焦点を絞り、個別の支援について検討し、全体に周知を図り、取り組んだ。今後も、経験則ではなく根拠に基づいた支援が提供できるように、学習会で得た知識を現場支援や対応に繋げられる内容を継続していきたい。

(ア) 支援内容

生活介護事業において「やまびこ園で生きがいを感じる」ことに喜びや意欲を感じられる活動内容を目指した。穏やかで自分らしいペースの中でもやりがいや生きがいを見つけることができる活動の提供に重点を置き、スタートした。また入所の方を対象に、生活に密着した活動として「ライフ」を設け、家庭菜園をしたり、居室の清掃を一緒に行ったりした。しかし、今年度も新型コロナウイルスの感染拡大の影響で活動の制限を余儀なくされ、外出や買い物外出等は中止となり、ボランティアによるミュージックケアを実施できなかった。ミュージックケアについては、職員が学習会に参加をし、職員が提供できる内容で実施をした。感染対策基準によっては、通所と入所合同での活動も行うことができた。活動スペースは今年度も通所と入所でグループ分けし、それぞれに活動提供を行った。また、園内でできる活動を模索し、「季節の日本舞踊」「お正月遊び」「豆まき」といった季節を感じるができる行事や余暇を職員の創意工夫の元、提供した。

また、12月より月に1、2回土曜日も開所し、余暇活動や創作活動の提供を試みた。

施設入所支援においては、今年度も新型コロナウイルスの感染拡大状況によって、帰省については制限を設けたため、帰省できない時期が続いた。園で過ごす時間が長くなる方が増えた。また、帰省ができない一方で面会については、玄関での窓越し面会やオンライン面会の仕組みを整備した。オンライン面会については、遠方の方を対象に整備したが、今年度は利用される方はいなかった。利用者の重度高齢化に伴い、転倒やベッド、車いすからの転落が見られ、利用者一人ひとりの状態に合わせた介護用品や介護技術を職員で共有し、少しでも園内で快適に過ごすことができるように努めた。また、利用者の歩行や移動に危険があった食堂から浴室にかけての廊下と食堂洗面所の床の隆起については、修繕について敦賀市と協議し、工事を行った。

個別支援計画においては、例年同様、各担当のうち1名の利用者分はサービス管理責任者が作成し、各担当が作成した個別支援計画を確認することで支援内容等の検討を行った。面談ができなかったため、電話でのモニタリングを中心に行った。

(イ) 日中活動の種類

「ワーク」：ウエス、ペットボトルラベルはがし、新聞紙たたみ、シュレッダー、メモ帳作り

「サロン」：絵画、四季の歌、塗り絵、紙芝居、ミニゲーム、近距離の散歩、軽運動、ボール遊び、